博徒ざむらい（1964）

メディア 映画
ジャンル
製作国 日本
色彩 B&W
初公開日 1964/11/14

【解説】
久保栄の同名戯曲を「忍びの者 霧隠才蔵」の高岩肇と「雪崩」の武田敦が脚色し「昨日消えた男 」の森一生が監督した。幕末を舞台に、時代に翻弄されるやくざの姿を描く。
甲斐の祐天こと祐天仙之助は、大親分津向の文吉のおかげで男一匹に成長した。しかし賭場を狙う吃安一家の用心棒を仙之助が斬ったことから、文吉と吃安が遠島の身となってしまう。責任を感じた仙之助は一家を盛り上げることに成功するが、島から逃げ帰ってきた吃安と手を組んだ代官宇津美にだまされ、決死の覚悟で横浜に逃げ延びた。甲州屋と出会い商いの道に喜びを見出す仙之助だったが、またもや宇津美に追われ、恩人に迷惑がかかるのをおそれて自首した。そこで彼は新徴組を率いる清河八郎と出会い、釈放されるのだった。

【クレジット】
監督 森一生
企画 宮古とく子
仲野和正
原作 久保栄
脚本 高岩肇
武田敦
撮影 今井ひろし
美術 太田誠一
音楽 塚原哲夫
出演 市川雷蔵
本郷功次郎
坪内ミキ子
芦田伸介
伊藤孝雄
植村謙二郎

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.